

意見陳述書(概略)

磯谷 富美子

第一 被告人川岸健治について

- 1 自首について
- 2 強姦未遂について
- 3 殺害について
- 4 闇サイト使用について
- 5 家族について
- 6 謝罪について
- 7 償いの方法について

第二 被告人堀慶末について

- 1 犯行・殺害について
- 2 謝罪について
- 3 償いの方法について

第三 被告人神田司について

- 1 殺害について
- 2 生い立ちについて
- 3 手紙について
- 4 謝罪について
- 5 償いの方法について

第四 被告人ら三人に対して言いたいこと

- ・三人共他の二人に罪を擦り付けていますが、自分のやった事にちゃんと向き合っていたら、共犯者の事など関係ないはずです。
- ・自分の罪だけを受け止め、本当に反省し謝罪する気があれば、どう償えば良いかおのずと見えてくるはずです。
- ・「償いの方法は命でもって償ってください。遺族は三人共に死刑を望んでいます。

第五 娘のいない生活について

- ・私は娘が亡くなるまで、娘と離れることなく、ずっと一緒に暮らして来ました。今住んでいる住居の何処を見ても、何をしていても、娘との生活がそこかしこに、たくさん溢れています。
- ・主人亡き後、女手一つで育て上げた、大切なたった一人の家族を、急に永遠に奪われたのです。娘との時間は止まったままで、亡くなった事をどうしても受け止める事が出来ません。娘は私の心の中で生きています。でも、二度と会う事も話をする事も出来ません。それがどんなに辛く悲しい事か。
- ・娘の命乞いの言葉や、変わり果てた娘の姿を思い出すと、胸が張り裂けそうに苦しくなります。その度に、一人声をあげて泣いていますが、この時ばかりは、誰にも遠慮することなく思いっきり泣ける環境が有難く感じます。

- ・事件前の私は、テレビを見て大声でよく笑ったり、友人達と趣味や外食をして、人生を楽しんでいました。事件の一週間程前に、娘は私の事を、「天真爛漫で子供みたいな人」と人に言ったそうです。娘には今の私の生活が、きっと想像できないことでしょう。
- ・休日を楽しみに働いていた生活は、被告人三人の、極刑を求める署名活動を中心にした生活に一変しました。私は娘の為にやれる事は、何でもやりたかった。活動当初は、悲しむ暇や寝る時間もないほど、処理に追われる日々でした。今思うと、睡眠不足でぼーとした頭と、多忙な毎日が、娘の事を思い出す時間を与えず、精神的な面で私を助けてくれたようです。
- ・一旦復帰した仕事も止め、家に引きこもる生活に変わり、時間があればパソコンの前に座っています。事件後はテレビを見て楽しむ事は全くなくなりました。
- ・娘と同じ年頃の女性や、若い親子連れを見ると、「お母さんは、孫ができたなら猫可愛がりするみたい」と言った娘の言葉が思い出されます。そんなささやかな夢も、もう絶対に叶うことはありません。辛くなるので人ごみに出る勇気が出ず、世の中の枠の外に、一人ぽつんと取り残された感覚です。
- ・これから先、何を楽しみに生きればいいのか。最愛の宝物の娘を奪われて、生き甲斐が見出せなくなりました。
- ・事件によって全てが変わってしまいました。
- ・殺されたのは娘一人だけではありません。私も娘と一緒に殺されたのです。

第六 最後に娘に伝えたいこと

- ・利恵ちゃん！お母さんですよ。
- ・最後までどんな暴力や悪にも屈せず、信念を貫き通した利恵ちゃんを、お母さんは娘としてではなく、人間として誇りに思います。誰にでもできる事ではありません。
- ・利恵ちゃんは最後まで生きる事を諦めませんでしたね。どれほど生きたかった事でしょうか。理由無く、何故殺されなければいけないのかと、どれほど悔しかったことでしょうか。本当に無念だったでしょうね。
- ・想像も出来ないほどの恐怖の中で、嘘の暗証番号「2960」を選択しなければならなかった利恵ちゃん的心情を思うと、可哀相で胸が苦しくなります。
- ・利恵ちゃんが残した「ニクムワ（2960）」のメッセージは、きちんと裁判官に届けました。そして、12月8日に証人として公判定で述べた数より、18,800名程も増え、1月19日現在で315,876名というたくさんの方が、利恵ちゃんのような被害者を二度と出さない為に、三人の被告人の極刑に賛同して下さいました。
- ・お母さんは、利恵ちゃんとの楽しかった思い出を大切に、貴方が私の娘であることを誇りに思い、貴方に笑われない様に、これからの人生を歩いていきます。
- ・お母さんのことは心配しないで、お父さんと共に天国から見守って下さいね。
そして何時の日か、笑って再び会える日を楽しみに頑張っていきます。

以上